

クス]ガ少クトモーツ存在スル。

今  $\Sigma$ ヲ稜ノ長サガ  $\epsilon_n$  ヨリ小ナル様ナ「シンプレツクス」  
 $\tau_k (k = 1, \dots, m) = s$  分割スレバ, 上ニ證明シタ様ニ,  $\{\tau_k\}$  ノ中ニ  
少クトモーツ特殊「シンプレツクス」 $\sigma_n$  ガ存在スル。今  $\epsilon_n \rightarrow 0$   
トスレバ  $\sigma_n$  ノ稜ハ 0 ニ收斂スルカラ,  $\sigma_n$  ノ中カラ適當ニ部分  
列ヲ撰ンデ一點 P = 收斂サセル時ハ, P ノ任意ノ近傍ハ  $\mathfrak{M}_1,$   
 $\dots, \mathfrak{M}_{n+1}$  ノ各々ト交ル。故ニ P ハ  $\mathfrak{M}_1, \dots, \mathfrak{M}_{n+1}$  ノ各々ノ集  
積點デアアル。然ルニ  $\mathfrak{M}_i$  ガ閉集合ナル故, P ハ  $\mathfrak{M}_1, \dots, \mathfrak{M}_{n+1}$  =  
屬スル。故ニ Lebesgue ノ定理ハ證明サレタ。

5. 豫備定理

次元數ノ不變性ヲ證明スルタメニ次ノ豫備定理ヲ證明スル。

豫備定理 1.  $\Sigma$ ヲ  $n$  次「シンプツクス」トスレバ, 適當ニ  $n+1$   
個ノ閉集合  $\mathfrak{M}_i (i = 1, \dots, n+1)$  ヲ作ツテ,  $\Sigma$  ノ點ハ  $\mathfrak{M}_i$  ノドレ  
カニ屬シ, 又  $\mathfrak{M}_i$  ハ  $\Sigma$  ノ只一ツノ頂點ノミヲ含ミ, ソノ頂點ニ對  
スル面トハ共通點ヲ有セズ又スベテノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ共通ナ點ハ只一  
ツシカナイ様ニ出來ル。

證明.  $A_1, A_2, \dots, A_{n+1}$  ヲ  $\Sigma$  ノ頂點トシ,  $s_i$  ヲ  $A_i$  ノ對面トスル。

$\Sigma$  ノ内部ニ一點  $P_0$  ヲトリ, ソノ重心座標ヲ  $(t_1^0, \dots, t_{n+1}^0)$  ト  
スル。

$\Sigma$  ノ任意ノ一點 P ノ重心座標ヲ  $(t_1, \dots, t_{n+1})$  トスレバ,

$$t_1^0 + \dots + t_{n+1}^0 = 1, t_1 + \dots + t_{n+1} = 1 \quad (t_i \geq 0, t_i^0 \geq 0). \quad (1)$$

今  $\mathfrak{M}_1, \dots, \mathfrak{M}_{n+1}$  ヲ次ノ様ニ定義スル。

$$\mathfrak{M}_1: t_1 \geq t_1^0,$$

$$\mathfrak{M}_2: t_1 \leq t_1^0, t_2 \geq t_2^0,$$

$$\mathfrak{M}_3: t_1 \leq t_1^0, t_2 \leq t_2^0, t_3 \geq t_3^0,$$

$$\mathfrak{M}_{n+1}: t_1 \leq t_1^0, t_2 \leq t_2^0, \dots, t_n \leq t_n^0, t_{n+1} \geq t_{n+1}^0.$$

コノ  $\mathfrak{M}_1, \dots, \mathfrak{M}_{n+1}$  ガ所要ノ條件ヲ満足シ,  $P_0$  ガスベテノ  $\mathfrak{M}_i$   
ニ共通ナ唯一ノ點デアアルコトヲ證明シヨウ。

先ヅ  $\Sigma$  ノ點ハドレカノ  $\mathfrak{M}_i$  ノ中ニ含まレルコトハ次ノ如ク  
シテ分ル。(1) カラ

$$(t_1 - t_1^0) + \dots + (t_{n+1} - t_{n+1}^0) = 0. \quad (2)$$

故ニ  $t_1 - t_1^0 \geq 0$  ナラバ P ハ  $\mathfrak{M}_1$  = 屬スル。若シ  $t_1 - t_1^0 < 0,$   
 $t_2 \geq t_2^0$  ナラバ  $\mathfrak{M}_2$  = 屬スル。以下同様ニシテ進ム。  $t_i - t_i^0$  ノ和  
ガ 0 ナル故, 全部  $t_i - t_i^0 < 0$  トイウ。コトハナイカラ上ノ方法デ P  
ガドレカノ  $\mathfrak{M}_i$  = 屬スルコトガ分ル。

全部ノ  $\mathfrak{M}_i$  = 共通ナ點ハ  $t_1 = t_1^0, \dots, t_n = t_n^0, t_{n+1} = t_{n+1}^0$  デナケ  
レバナラナイコトモ容易ニ分ルカラ  $P_0$  ガスベテノ  $\mathfrak{M}_i$  = 共  
通ナ唯一ノ點デアアル。又  $\mathfrak{M}_i$  ハ  $A_i (t_1 = 0, t_2 = 0, \dots, t_{i-1} = 0,$   
 $t_i = 1, t_{i+1} = 0, \dots, t_{n+1} = 0)$  ヲ含ミ  $s_i (t_i = 0)$  ヲ含マナイ。

豫備定理 2. 任意ニ小サナ閉集合  $\mathfrak{M}_i (i = 1, 2, \dots)$  ヲ作ツテ,  
 $n$  次元ノ空間  $R_n$  ノ各點ハ  $\mathfrak{M}_i$  ノドレカニ屬シ, 且如何ナル點モ  
 $n+1$  個ヨリ多クノ  $\mathfrak{M}_i$  ニハ屬セズ又  $R_n$  ノ任意ノ有限ナル部  
分ト點ヲ共有スル  $\mathfrak{M}_i$  ハ有限個シカナイ様ニ出來ル。

證明.  $\epsilon > 0$  ヲ任意ニ與ヘラレタ正數トスル時,  $R_n$  ヲ「シン  
プレツクス」 $\Sigma_\epsilon = s$  分割シ, 各「シンプレツクス」ノ稜ノ長サヲ  
 $\epsilon$  ヨリ小ニスル。豫備定理 1 = ヲツテ, 各「シンプレツクス」  
内ヲ  $n+1$  個ノ閉集合  $\{\mathfrak{M}_i\}$  = 分チ, 頂點トツノ對面トハ同ジ集

合 = 屬シナイ様 = スル.  $A$ ヲコノ一ツノ「シンプレツクス」 $\Sigma_h$ ノ頂點トスレバ, コレハ  $h$ 個ノ「シンプレツクス」 $\Sigma_i (i=1, \dots, h)$ ノ頂點デアル.  $A$ ヲ  $\Sigma_i$ ノ點トミレバ, コレハ  $\Sigma_i$ ヲ閉集合 = 分ケターツノ閉集合  $\mathfrak{M}_i =$  含マレル. 今

$$\mathfrak{M}_1 + \mathfrak{M}_2 + \dots + \mathfrak{M}_h = \mathfrak{M}_k$$

ト置ケバ, 各「シンプレツクス」 $\Sigma_k$ ノ頂點 = ハ, ソレヲ含ム一ツノ閉集合  $\mathfrak{M}_k$ ガ對應スル.  $\Sigma_i$ ノ稜ノ長サハ  $\varepsilon$ ヨリ小ダカラ,  $\Sigma_i$ ノ直徑ハ  $\varepsilon$ ヨリ小, 從ツテ  $\mathfrak{M}_i$ ノ直徑ハ  $\varepsilon$ ヨリ小デアルカラ,  $\mathfrak{M}_k$ ノ直徑ハ  $2\varepsilon$ ヨリ小デアル. カクスレバ空間  $R_n$ ノ點ハ少クトモ一ツノ  $\mathfrak{M}_k =$  含マレ,  $R_n$ ノ任意ノ有限ナル部分ハ高々有限個ノ  $\mathfrak{M}_k$ ト共通點ヲ有スルコトガ分ル. 次ニ空間  $R_n$ ノ如何ナル點モ  $n+1$ 個ヨリ多クノ  $\mathfrak{M}_k =$  ハ屬シナイコトヲ證明シヨウ. 「シンプレツクス」 $\Sigma_i$ ノ内部ノ點ハ明カニ  $n+1$ 個ヨリ多クノ  $\mathfrak{M}_k =$  ハ屬シナイ. 次ニ  $\Sigma_i$ ノ面上ノ點ハツノ面 = 屬スル頂點ヲ過ル  $\mathfrak{M}_k =$  屬スルカラ高々  $n$ 個ノ  $\mathfrak{M}_k =$  屬スル. 故ニ  $R_n$ ノ下ノ點モ  $n+1$ 個ヨリ多クノ  $\mathfrak{M}_k =$  ハ屬シナイ.

### 6. 次元數ノ不變性ノ定理ノ證明

$\mathfrak{M}$ ヲ  $n+h$ 次空間  $R_{n+h} (h>0)$ ノ内點ヲ有スル點集合トシ,  $\mathfrak{M}'$ ヲコレニ連続的ニ  $1-1$ 對應スル  $n$ 次空間  $R_n$ ノ點集合トスル.

$\mathfrak{M}$ ノ内 =  $(n+h)$ 次「シンプレツクス」 $\Sigma$ ヲトル. コレハ  $\mathfrak{M}$ ガ内點ヲ含ムカラ可能デアル. コノ  $\Sigma$ ハ有界ナ閉集合デアル.  $\Sigma = R_n$ デハ  $\Sigma'$ ガ對應スルトスレバ對應ガ連続的ダカラ  $\Sigma'$ ハ有界ナ閉集合デアル. 今  $R_n$ ヲ豫備定理 2ニヨツテ「シンプ

レツクス」ノ和 =  $s$ 分割スル時ハ,  $\Sigma'$ ト共通點ヲ有スル「シンプレツクス」ハ有限個デアル. コレヲ  $\sigma_1, \dots, \sigma_s$ トスル.  $\sigma_i$ ト  $\Sigma'$ トノ共通集合ヲ  $\sigma_i \Sigma' = \mathfrak{M}_i'$ ト置ケバ,

$$\Sigma' = \mathfrak{M}_1' + \dots + \mathfrak{M}_s'$$

デ  $\mathfrak{M}_i'$ ハ有界ナル閉集合デアル. 假定ニヨリ  $\Sigma'$ ノ點ハ  $n+1$ 個ヨリ多クノ  $\mathfrak{M}_i' =$  ハ屬シナイ.

$\mathfrak{M}_i' =$  ハ  $R_{n+h}$ デハ  $\mathfrak{M}_i$ ガ對應スルトスレバ,  $\mathfrak{M}_i$ ハ明カニ有界ナ閉集合デ,  $\sigma_i$ ノ稜ノ長サヲ十分小ニスレバ,  $\mathfrak{M}_i$ ハ十分小ニナル. 且

$$\Sigma = \mathfrak{M}_1 + \dots + \mathfrak{M}_s.$$

故ニ  $\Sigma$ ノ點ハ有限個ノ閉集合  $\mathfrak{M}_i (i=1, \dots, s)$ ノドレカニ屬シ, 且下ノ點モ  $n+1$ 個ヨリ多クノ  $\mathfrak{M}_i =$  ハ屬シナイ. コレハ  $h>0$ ナラバ Lebesgueノ定理ニ反スル. 故ニ  $\mathfrak{M}$ ト  $\mathfrak{M}'$ トハ連続的ニ  $1-1$ 對應スルコトハ出來ナイ.

### 7. 領域ノ不變性ノ定理

Lebesgueノ定理ノ應用トシテ次ノ重要ナル Schoenfliesノ定理ヲ證明シヨウ.

領域ノ不變性 (Gebietsinvarianz)ノ定理.  $n$ 次空間  $R_n$ ノニツノ集合  $\mathfrak{M}, \mathfrak{M}'$ ガ連続的ニ  $1-1$ 對應スル時ハ,  $\mathfrak{M}$ ノ内點ト  $\mathfrak{M}'$ ノ内點トハ互ニ對應スル.

從ツテ  $\mathfrak{M}$ ノ境界點ト  $\mathfrak{M}'$ ノ境界點トガ互ニ對應スル.

先ズ次ノ豫備定理ヲ證明シヨウ.

豫備定理.  $\mathfrak{M}$ ヲ  $n$ 次空間  $R_n$ ノ有界ナル閉集合トシ,  $\mathfrak{M}$ ノ各

點ハ有限個ノ閉集合  $\mathfrak{M}_i (i=1, \dots, s)$  ノドレカニ含マレ又下ノ點モ  $n+1$  個ヨリ多クノ  $\mathfrak{M}_i$  ニハ屬シナイ. 且  $n+1$  個ノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ屬スル點ハ唯一點  $P$  ノミデ且  $P$  ガ  $\mathfrak{M}_i$  ノ境界點トスレバ  $P$  ノ任意ノ近傍ダケ  $\mathfrak{M}_i$  ノ分布ヲ變ズルコトニヨツテ,  $\mathfrak{M}_i$  ノ各點ハ  $n$  個ヨリ多クノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ屬シナイ様ニ出來ル.

證明.  $P$  ヲ内部ニ含ム任意ニ小サナ  $n$  次「シンプレックス」ヲ  $\Sigma$  トスル.  $\Sigma$  ノ表面ヲ  $\mathfrak{D}$  トシ,

$$\mathfrak{D} = \mathfrak{M} \cdot \mathfrak{D}$$

トスル. 假定ニヨリ  $\mathfrak{D}$  ハ特殊點\*ヲ含マナイ. 故ニ  $\mathfrak{D}$  ノ各點ヲ中心トシテ十分小サナ近傍  $U$  ハ高々  $n$  個ノ  $\mathfrak{M}_i$  ト交ル.

$\varepsilon > 0$  ヲ適當ニ小ニトレバ,  $\mathfrak{D}$  ノ各點ヲ中心トシテ半径  $\varepsilon$  ノ球内\*\* ( $\varepsilon$  近傍) ハ高々  $n$  個ノ  $\mathfrak{M}_i$  ト交ル様ニ出來ル. 何トナレバ若シ然ラズトセバ,  $\varepsilon_1 > \varepsilon_2 > \dots > \varepsilon_n > \dots \rightarrow 0$  ナル  $\{\varepsilon_n\}$  ニ對シテ,  $\mathfrak{D}$  ノ點  $P_n$  ヲ求メ  $P_n$  ノ  $\varepsilon_n$  近傍ハ少クトモ  $n+1$  個ノ  $\mathfrak{M}_i$  ト交ル様ニ出來ルカラ,  $P_n$  ノ集積點  $P_0$  ハ少クトモ  $n+1$  個ノ  $\mathfrak{M}_i$  ノ集積點トナル.  $\mathfrak{M}_i$  ガ閉集合ナル故,  $P_0$  ハ  $n+1$  個ノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ共通點トナツテ假定ニ反スル故デアル.

今  $\mathfrak{D}$  上ニ直径ガ  $\varepsilon$  ヨリ小ナル有限個ノ閉集合  $\mathfrak{M}_i (i=1, \dots, r)$  ヲ分布セシメ,  $\mathfrak{D}$  ノ各點ハ  $\mathfrak{M}_i$  ノドレカニ含マレ又下ノ點モ  $n$  個ヨリ多クノ  $\mathfrak{M}_i$  ニハ屬セヌ様ニスル\*\*\*. 然ル後ニコノ  $\mathfrak{M}_i$  ヲ  $\mathfrak{M}_k$

\* 即チ  $n+1$  個ノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ屬スル點.

\*\*  $\varepsilon$  ハ球ノ中心ニハ依存シナイ.

\*\*\* 豫備定理 1 ト證明ハ同様.  $\mathfrak{D}$  ハ有限個ノ  $(n-1)$  次「シンプレックス」ノ和ナルコトニ注意.

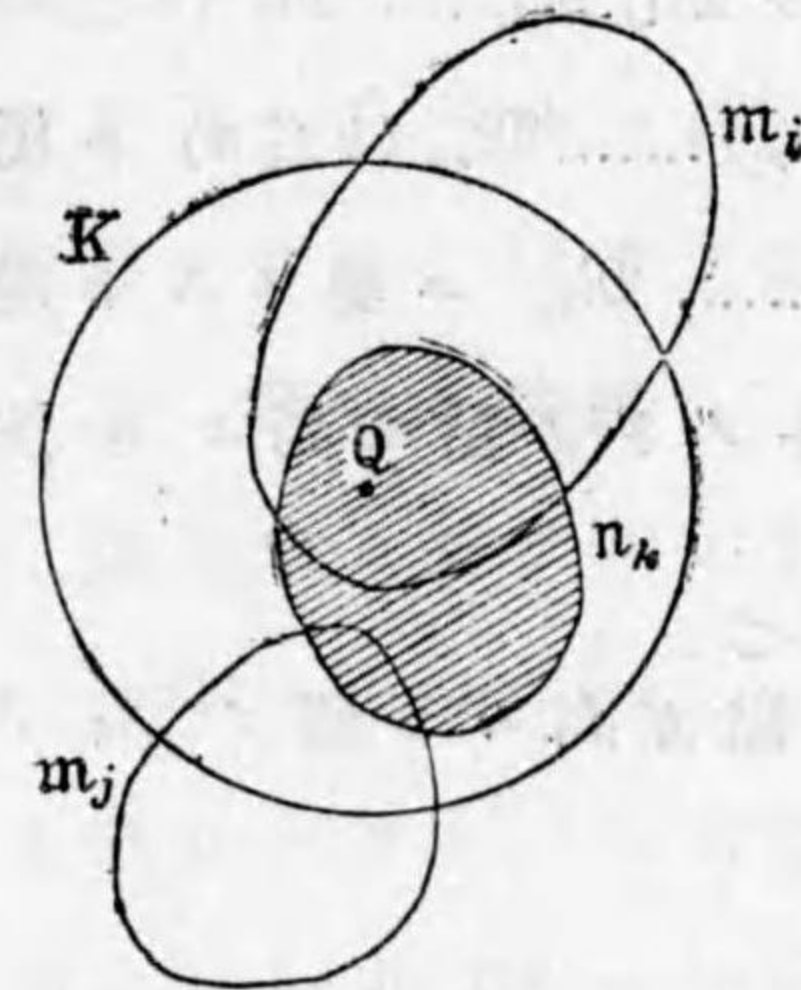
ノ中ニ次ノ方法ニヨツテ編入スル.

(1) 若シ  $\mathfrak{N}_k$  ガ  $\mathfrak{D}$  ノ點ヲ含マナケレバ,  $\mathfrak{N}_k$  ハ任意ノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ編入スル.

(2) 若シ  $\mathfrak{N}_k$  ガ  $\mathfrak{D}$  ノ點ヲ含メバ, ソノ點ハ高々  $n$  個ノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ屬シテ居ルガ,  $\mathfrak{N}_k$  ハソノ中ノ任意ノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ編入スル.

カクスレバ  $\mathfrak{D}$  ノ點ハドレカノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ屬スル様ニナルガ, ソレデモ  $\mathfrak{D}$  ノ點ハ  $n$  個ヨリ多クノ  $\mathfrak{M}_i$  ニハ屬スルモノガナイコトヲ證明シヨウ.  $\mathfrak{D}$  ノ點デ  $\mathfrak{D}$  ニ屬シナイモノハ高々  $n$  個ノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ屬スルカラ, 從ツテ高々  $n$  個ノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ屬スル.

次ニ  $Q$  ヲ  $\mathfrak{D}$  ノ點トスル.  $Q$  ハ  $\mathfrak{N}_k$  ヲ  $\mathfrak{M}_i$  ニ編入スル以前ニハ高々  $n$  個ノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ屬スル. コレ



$$\mathfrak{M}_1, \dots, \mathfrak{M}_f \quad (f \leq n) \quad (1)$$

$$\mathfrak{N}_1, \dots, \mathfrak{N}_g \quad (2)$$

トスル. 又  $Q$  ヲ含ム  $\mathfrak{N}_k$  ヲ

$$\mathfrak{M}_1, \dots, \mathfrak{M}_h \quad (f \leq h \leq n) \quad (3)$$

トスレバ明カニ  $g \leq n$  デアル.

コレ等ノ  $\mathfrak{N}_k (k \leq g)$  ハ直径ガ  $\varepsilon$  ヨリ小ダカラ  $Q$  ノ  $\varepsilon$  近傍ニアル. 編入前ニハ, コノ  $\varepsilon$  近傍ト交ハル  $\mathfrak{M}_i$  ハ高々  $n$  個シカナイ. コレヲ

トスル. ( $\mathfrak{M}_1, \dots, \mathfrak{M}_f$  ハ  $Q$  ヲ含ムカラ, コノ中ニアル).

サテ  $\mathfrak{N}_k$  ヲ  $\mathfrak{M}_i$  ニ編入後, 始メノ (1) ノ外ニ更ラニ  $Q$  ヲ含ム  $\mathfrak{M}_j$  ガ現ハレルコトガアル. ソレハ  $\mathfrak{N}_k$  ガ  $Q$  ヲ含ミ且  $\mathfrak{N}_k$  ト  $\mathfrak{M}_j$  トガ  $Q$  以外ノ點デ交ル時ニ,  $\mathfrak{N}_k$  ヲ  $\mathfrak{M}_i$  ニ編入スルカラ, コノ  $\mathfrak{M}_i$

が  $Q$  を含ム様ニナルノデアル。然シ  $\mathfrak{M}_k$  ハ  $Q$  ノ  $\varepsilon$  近傍ニアルシ、 $\varepsilon$  近傍ト交ル  $\mathfrak{M}_i$  ハ高々  $n$  個シカナイコトニ注目スレバ、ヤハリ編入後デモ  $Q$  を含ム  $\mathfrak{M}_i$  ノ數ハ  $n$  を超ヘナイコトガ分ル。

故ニ  $\mathfrak{D}$  ノ點ハ高々  $n$  個ノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ屬スル。

サテ  $P$  ハ假定ニヨリ、 $\mathfrak{M}$  ノ境界點ダカラ、 $\Sigma$  ノ内部ニ  $P$  ノ任意ノ近クニ  $\mathfrak{M}$  ニ屬セヌ點  $S$  ガ存在スル。

$\Sigma$  ノ中ニアツテ  $\mathfrak{M}$  ニ屬スル點ノ集合ヲ  $\mathfrak{R}$  トスル。即チ

$$\mathfrak{R} = \Sigma \mathfrak{M}.$$

假定ニヨリ  $\mathfrak{M}$  ノ點ハ有限個ノ閉集合  $\mathfrak{M}_1, \dots, \mathfrak{M}_n$  ノドレカニ屬シテ居ルガ、今コノ  $\Sigma$  ノ内部ノ  $\mathfrak{M}_i$  ノ分布ヲ次ノ様ニ變更スル。

$\Sigma$  ノ表面  $\mathfrak{D} = \mathfrak{M}_i$  ト  $\mathfrak{M}_k$  トヲ用ヒテ、新シク  $\mathfrak{M}_1, \mathfrak{M}_2, \dots, \mathfrak{M}_s$  ( $s \leq n$ ) ヲ分布シタガ、今  $\mathfrak{D}$  ノ一點  $R$  ガコノ新  $\mathfrak{M}_{v_1}, \dots, \mathfrak{M}_{v_k}$  ( $k \leq n$ ) ニ屬スル時ニ、線分  $\overline{SR}$  ノ  $S$  以外ノ點ハ  $\mathfrak{M}_{v_1}, \dots, \mathfrak{M}_{v_k}$  ニ屬スルト規定スル。カクスレバ  $\Sigma$  ノ内部ノ  $S$  以外ノドノ點モ高々  $n$  個ノ  $\mathfrak{M}_k$  ニ屬スルコトガ分ル。

$S$  ハ  $\mathfrak{R}$  ノ上ニナイカラ  $\mathfrak{R}$  ノスベテノ點ガ高々  $n$  個ノ  $\mathfrak{M}_k$  ノ上ニアルコトトナリ定理ハ證明サレタ。

### 8. 領域ノ不變性ノ定理ノ證明

定理ヲ證明スルニハ次ノコトヲ證明スレバヨイ。

$n$  次空間  $R_n$  内ニ  $n$  次「シンプレツクス」 $\Sigma$  ト點集合  $\mathfrak{M}$  トガ連続的ニ 1-1 對應スル時ハ、 $\Sigma$  ノ内點ニハ常ニ  $\mathfrak{M}$  ノ内點ガ對應スル。

證明.  $\Pi$  ヲ  $\Sigma$  ノ内點トシ、コレニ  $\mathfrak{M}$  ノ一點  $P$  ガ對應スル。184 頁豫備定理 1 ニヨリ  $\Sigma$  ノ内部ニ  $n+1$  個ノ閉集合  $\mathfrak{M}_i$  ( $i=1,$

$\dots, n+1$ ) ヲ分布シテ、各  $\mathfrak{M}_i$  ハ一ツノ頂點ノミヲ含ミ對面トハ共通點ノナイ様ニ、且  $\Pi$  ガ  $\mathfrak{M}_1, \dots, \mathfrak{M}_{n+1}$  ニ共通ナ唯一ノ點ナル様ニスル。  $\Pi$  ガ  $\Sigma$  ノ内點ナル故、Lebesgue ノ定理ニヨリ、 $\Pi$  上ニ  $\Pi$  ノ近傍ノ  $\mathfrak{M}_i$  ノ分布ヲ變更シテモ  $n+1$  個ノ  $\mathfrak{M}_i$  ニ共通ナ點ガ現ハレル (181 頁)。

對應ガ連続的ダカラ、 $\mathfrak{M}_i$  ニハ  $\mathfrak{M}$  ノ方デ  $n+1$  個ノ閉集合  $\mathfrak{M}'_1, \dots, \mathfrak{M}'_{n+1}$  ガ對應スル。  $\Pi$  ノ對應點  $P$  ハスベテノ  $\mathfrak{M}'_i$  ( $i=1, \dots, n+1$ ) ニ共通ナ點デ、カ、ル點ハ  $P$  以外ニナイ。

今  $P$  ガ  $\mathfrak{M}$  ノ境界點ト假定スレバ、前節豫備定理ニヨリ  $P$  ノ近傍ダケ  $\mathfrak{M}'_i$  ノ分布ヲ變ズルコトニヨツテ、 $\mathfrak{M}$  ノドノ點モ  $n+1$  個ノ  $\mathfrak{M}'_i$  ニ共通點トナラス様ニ出來ル。シカシコレハ  $\Sigma$  ノ方カラ考ヘレバ、上ニ述ベタ様ニ不可能デアル。故ニ  $P$  ハ  $\mathfrak{M}$  ノ内點デアル。依ツテ定理ハ證明サレタ。

### 9. Peano 曲線

第五章ニ於テ正方形ヲ滿タス連続曲線ノ存在ヲ證明シタ。

一般ニ  $x_1 = f_1(t), \dots, x_n = f_n(t)$  ( $0 \leq t \leq 1$ ) ヲ  $n$  個ノ連続函数トスレバ、コレハ  $n$  次空間  $R_n$  ニテ一ツノ连续曲線ヲ定義スル。若シコレガ  $R_n$  ノ一領域ヲ全部滿タス場合ニハ、カ、ル曲線ノコトヲ一般ニ Peano 曲線ト呼ブコトニスル。

前ニ平面ノ場合 ( $n=2$ ) ハ  $\Pi$  上ニ Peano 曲線モ無數ノ三重點ヲ有スルコトヲ述ベタガ、コ、デハ一般ニ次ノ定理ヲ Lebesgue ノ定理ヲ用ヒテ證明シヨウ\*。

\* H. Lebesgue: Sur les correspondences entre les points de deux espaces. (Fundamenta Mathematicae. II. (1921)).

定理. 一ツノ連続曲線  $\Gamma$  ガ  $n$  次空間  $R_n$  ノ一ツノ領域  $D$  ヲ全部満たす時ニハ,  $D$  ノ中ニ任意ニドンナ小サナ  $n$  次「シンプレックス」ヲトツテモ, ソノ中ニ  $\Gamma$  ノ (少クトモ)  $n+1$  重點ガ存在スル.

証明.  $\Sigma$  ヲ  $D$  ノ中ノ  $n$  次「シンプレックス」トスル.  $t$  ガ 0 カラ 1 マデ動く時,  $\Gamma$  ハ  $\Sigma$  ノ  $\rho$  ノ點モ一回ハ必ズ通過スル.

今  $[0, 1]$  ヲ有限個ノ點  $0 < t_1 < t_2 < \dots < t_s < 1$  デ分割スル\*.  $t_i (i = 1, \dots, s)$  ヲ中心ニ含ム區間ヲ  $(\tau_i, \tau_i')$  トスル.

$(\tau_i, \tau_i')$  ヲ次ノ條件ヲ満足スル様ニトスル.

$$0 < \tau_1 < t_1 < \tau_1' < \tau_2 < t_2 < \tau_2' < \dots < \tau_s < t_s < \tau_s' < 1$$

コノ時二ツノ場合ガ起ル.

(i)  $t$  ガ閉區間  $[0, \tau_1], [\tau_1', 1]$  ヲ動イタダケデ曲線ガ  $\Sigma$  ヲ全部満たす場合.

コノ場合ハ  $[0, \tau_1], [\tau_1', 1]$  ダケ考へ, コレニ對應スル  $\Gamma$  ノ弧ヲ  $\Gamma_1$  トスル.

(ii)  $[0, \tau_1], [\tau_1', 1]$  ダケデハ曲線ガ  $\Sigma$  ヲ全部満たさず場合.

コノ時ハ開區間  $(\tau_1, \tau_1')$  ノ中ニ一點  $t$  ガアリ, コノ  $t$  ニ對應スル  $\Gamma$  ノ點ハ  $[0, \tau_1], [\tau_1', 1]$  ニ對應スル  $\Gamma$  ノ弧ガ通過シナイ. カル  $t$  ノ一ツヲ  $\theta_1$  トスル.  $[0, 1]$  ノ分割ヲ變更シテ,  $\theta_1$  ヲ更メテ  $t_1$  トスル. コノ時ハ  $\Gamma$  全體ヲ  $\Gamma_1$  ト書ク.

次ニ若シ  $\Gamma_1$  カラ  $(\tau_2, \tau_2')$  ヲ除イテモ  $\Sigma$  ヲ全部満たす時ニハ,  $\Gamma_1$  カラ  $(\tau_2, \tau_2')$  ニ對應スル弧ヲ除キ去ツテ, コレヲ  $\Gamma_2$  トスル.

\* 以下  $[a, b]$  ハ閉區間  $a \leq t \leq b$  ヲ,  $(a, b)$  ハ開區間  $a < t < b$  ヲ表ハスモノトスル.

若シ  $(\tau_2, \tau_2')$  ナシデハ,  $\Gamma_1$  ガ  $\Sigma$  ヲ全部満たさナイ時ハ,  $\Gamma_1$  全體ヲ  $\Gamma_2$  トスル. 其時ハ  $(\tau_2, \tau_2')$  ノ中ニ一點  $\theta_2$  ガ存在シ, コノ  $\theta_2$  ニ對應スル點ハ,  $\Gamma_1$  カラ  $(\tau_2, \tau_2')$  ニ對應スル部分ヲ除イタ弧ハ通過シナイ. コノ  $\theta_2$  ヲ更メテ  $t_2$  トスル. 以下  $(\tau_3, \tau_3')$  .....  $(\tau_s, \tau_s')$  ニツイテ同様ノコトヲ行ヒ, コレニ對應シテ  $\Gamma$  ノ弧  $\Gamma_1, \Gamma_2, \dots, \Gamma_s$  ヲ得.  $\Gamma_s$  ノコトヲ  $\gamma$  ト書ク. 即チ

$$\Gamma_s = \gamma$$

トスレバ,  $\gamma$  ハ  $\Sigma$  ノ點ヲ少クトモ一回通過スル.  $\gamma$  ニハ  $[0, 1]$  内ノ有限箇ノ閉區間ガ對應スル. コノ全體ヲ  $e$  トスレバ,  $e$  ハ明カニ閉集合デアル.

$[0, 1]$  ヲ閉區間  $[0, t_1], [t_1, t_2], \dots, [t_s, 1]$  ニ區分スレバ,  $e$  ハ有限個ノ閉集合  $e_i$  ノ和ニ分割サルカラ, コレニ對應シテ  $\gamma$  ハ同數ノ閉集合  $\gamma_i$  ニ分割サレル.  $\gamma_i$  ト  $\Sigma$  トノ共通集合ヲ  $\Gamma_i$  トスル. 即チ

$$\gamma_i \cap \Sigma = \Gamma_i$$

ト置ケバ,  $\Gamma_i$  ハ閉集合デ  $\Sigma$  ハ有限箇ノ閉集合  $\Gamma_i$  ノ和ニナル.

最初  $[0, 1]$  ヲ  $t_i$  デ分割スル時十分密ニ  $t_i$  ヲトツテ置ケバ,  $\Gamma_i$  ノ直徑ハ十分小ニナルカラ, 從ツテ Lebesgue ノ定理ガ應用出來テ,  $\Sigma$  ノ中ニ少クトモ  $n+1$  個ノ  $\Gamma_i$  從ツテ  $\gamma_i$  ニ共通ナ點  $A$  ガ存在スル.

$A$  ハ  $\gamma_\alpha, \gamma_\beta, \dots, \gamma_\lambda$  ノ上ニアリトスレバ,  $A$  ニハ  $t$  ノ方デハ  $e_\alpha, e_\beta, \dots, e_\lambda$  ノ中ニアル  $n+1$  個ノ  $t$  ノ値ガ對應スル. コノ

\*  $t_i$  ノ中ニハ  $\theta_i$  ヲ更メテ  $t_i$  トシタモノモアル.

$t$  の値ハ全部等シクナイコトヲ證明シヨウ.

同ジ  $e_k$  ノ中ニアルニツノ  $t$  ノ値ハ一致スルコトハナイカラ、若シ  $e_\alpha, e_\beta$  内ノ  $t$  ノニツノ値  $a_\alpha, a_\beta$  ガ一致スル場合ハ、 $a_\alpha, a_\beta$  ガ區間  $e_\alpha, e_\beta$  ノ境界點ニ一致スル時デアアル。コノ時ハ前述ノツノ  $\theta$  ニ一致スル時デアアル。此時ハ  $\theta$  ヲ中ニ含ム區間ヲ  $(\tau, \tau')$  トスレバ、コノ  $\theta$  ニ對應スル點  $A$  ニ對應スル  $t$  ノ値ハ  $(\tau, \tau')$  ノ外ニハナイ。然ルニ  $\gamma_\alpha, \dots, \gamma_\lambda$  ノ數ハ少クトモ  $n+1 > 2$  ダカラ、 $(\tau, \tau')$  ノ外ノ値ニモ  $A$  ガ對應スルコトニナリ不合理デアアル。故ニ  $A$  ニハ少クトモ  $n+1$  個ノ異ナル  $t$  ノ値ガ對應スル。故ニ  $A$  ハ少クトモ  $n+1$  重點デアアル。(證明終)

コノ結果ヲ更ラニ擴張スルタメニ先ヅ  $p$  次ノ集合體 (variété à  $p$  dimensions) ノ定義ヲスル。

$n$  次空間  $R_n$  ノ點集合  $M_p$  ノ點  $(x_1, \dots, x_n)$  ガ

$$\left. \begin{aligned} x_1 &= f_1(u_1, \dots, u_p) \\ \dots\dots\dots \\ x_p &= f_n(u_1, \dots, u_p) \end{aligned} \right\} (0 \leq u_1 \leq 1, \dots, 0 \leq u_p \leq 1)$$

デ表ハサレ、 $f_1, \dots, f_n$  ハ連續函數デ且  $M_p$  ノ點ト  $p$  次區間  $0 \leq u_1 \leq 1, \dots, 0 \leq u_p \leq 1$  ト 1-1 對應スル時ニ、 $M_p$  ノコトヲ  $p$  次ノ集合體トイフ。上ノ定理ノ證明ト全く同様ニシテ  $p \geq 2$  ナラバ、ドンナ小サナ  $p$  次集合體  $M_p$  ノ上ニモ Peano 曲線ノ  $p+1$  重點ノアルコトガ分カル。

次ニ  $p=1$  ノ時デモ同様ノコトガ成立スルコトヲ示サウ。

即チ任意ノ重複點ナキ連續曲線  $C$  ノ上ニハ Peano 曲線  $\Gamma$  ノ (少クトモ) 二重點ガ存在スルコトヲ證明シヨウ。  $C, \Gamma$  ヲ夫々

$$C : x_i = f_i(\tau) \quad (i = 1, \dots, n) \quad (0 \leq \tau \leq 1)$$

$$\Gamma : x_i = F_i(t) \quad (i = 1, \dots, n) \quad (0 \leq t \leq 1)$$

トシ、 $f_i, F_i$  ハ連續函數トスル。  $C$  ト  $\Gamma$  トノ交點デハ  $f_i(\tau) = F_i(t)$  ( $i = 1, \dots, n$ ) デアル。

若シ  $C$  ノ上ニ Peano 曲線  $\Gamma$  ノ二重點ガナイトスレバ、 $t$  ハ  $\tau$  ノ一價函數トナルカラ、コレヲ  $t = t(\tau)$  トスレバ、 $t(\tau)$  ハ  $\tau$  ノ連續函數デアアル。ソレヲ證明スルニハ、 $\tau_1, \tau_2, \dots, \tau_n \rightarrow \tau_0$  ニ對シテ、 $t_n = t(\tau_n) \rightarrow t_0 = t(\tau_0)$  ヲ證明スレバヨイ。若シ然ラズトスレバ、 $\{\tau_n\}$  ノ中カラ部分列  $\{\tau_n'\}$  ヲ撰ンデ、 $\tau_n' \rightarrow \tau_0$  デ且  $t_n' = t(\tau_n') \rightarrow t_0' (\neq t_0)$  ナラシメルコトガ出來ル。

$f_i(\tau), F_i(t)$  ハ連續ダカラ

$$\lim_{n \rightarrow \infty} f_i(\tau_n') = f_i(\tau_0), \quad \lim_{n \rightarrow \infty} F_i(t_n') = F_i(t_0')$$

$f_i(\tau_n') = F_i(t_n')$  ダカラ

$$f_i(\tau_0) = F_i(t_0').$$

然ルニ  $f_i(\tau_0) = F_i(t_0)$ .

故ニ  $F_i(t_0) = F_i(t_0') \quad (i = 1, 2, \dots, n)$ .

故ニ  $x_i^0 = F_i(t_0) (i=1, \dots, n)$  トスレバ、 $(x_1^0, \dots, x_n^0)$  ハ  $\Gamma$  ノ二重點トナリ假定ニ反スル。故ニ  $t = t(\tau)$  ハ  $\tau$  ノ連續函數デアアル。

$C$  ト  $\Gamma$  ノ一部トガ 1-1 對應スルカラ、 $\tau$  ハ  $t$  ノ一價函數デアアル。コレヲ  $\tau = \tau(t)$  ト置ク。從ツテ  $\tau(t)$  ハ  $t$  ノ連續函數デアアル。區間  $a \leq t \leq b$  ト  $0 \leq \tau \leq 1$  トガ、 $t = t(\tau), \tau = \tau(t)$  ニヨツテ連續的ニ 1-1 對應スル。故ニ  $C$  ハ  $\Gamma$  ノ一部分  $a \leq t \leq b$  ト全ク一致スル。

假定ニヨリ C ハ重複點ナキ故、前定理デ空間ノ一部ヲ滿タスコトハ出来ナイ。故ニ  $P_0(t=t_0)$  ヲ C ノ(兩端トハチガウ) 點トスレバ、 $P_0$  = 收斂スル點列、 $P_1, P_2, \dots, P_m, \dots$  ヲ C ノ外ニトレル。コレニ  $t_1, t_2, \dots, t_m, \dots$  ガ對應スルトスレバ、コレハ區間  $a \leq t \leq b$  ノ外ニアル。  $t_1, \dots, t_m, \dots$  ノ中カラ適當ニ部分列、 $t'_1, t'_2, \dots, t'_m, \dots$  ヲ撰ンデ  $t'_0$  = 收斂サス、

$$t'_m \rightarrow t'_0.$$

$t'_0$  ハ  $a \leq t \leq b$  ノ外ニアル故  $t_0 \neq t'_0$ 。故ニコノ  $P_0$  = ハ  $t_0, t'_0$  ガ對應シテ  $P_0$  ガ  $\Gamma$  ノ二重點トナリ不合理デアル。故ニ次ノ定理ヲ得。

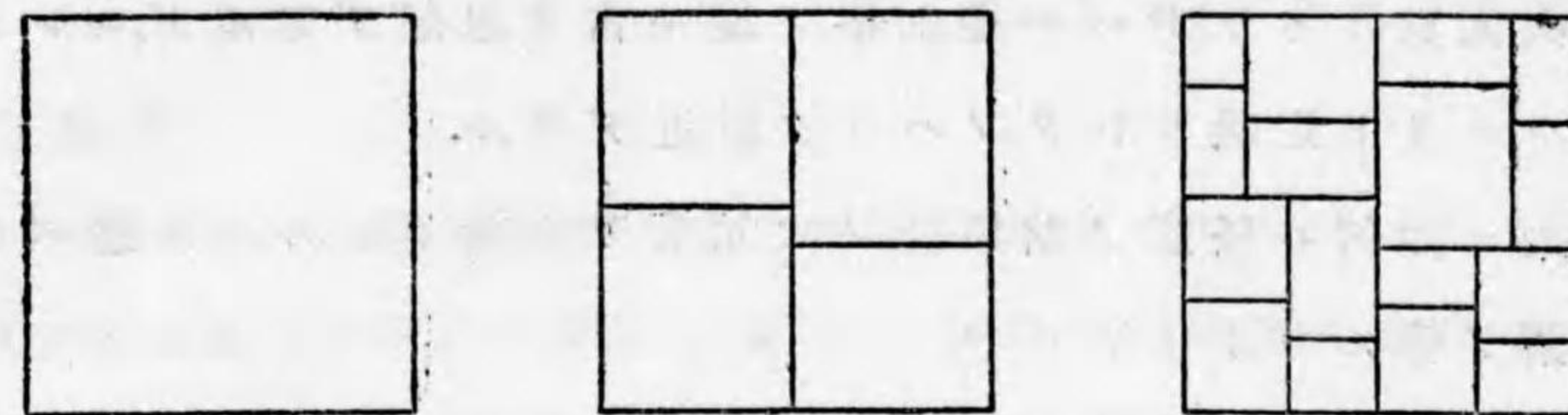
**定理.** 連續曲線  $\Gamma$  ガ  $n$  次空間ノ一ツノ領域  $D$  ヲ全部滿タス時ハ、 $D$  ノ中ノ任意ノ  $p$  次集合體  $M_p$  ( $p \geq 1$ ) ノ上ニ、 $\Gamma$  ノ(少クトモ)  $p+1$  重點ガ常ニ存在スル。

上ノ定理デ  $n$  次空間ノ一ツノ領域ヲ全部滿タス Peano 曲線ハ少クモ  $n+1$  重點ガ存在スルコトガ證明サレタガ、次ニ起ル問題ハ  $n+1$  重點或ハソレ以下ノ重複點ノミヲ有スル Peano 曲線ガ實際存在スルカトイウコトデアル。

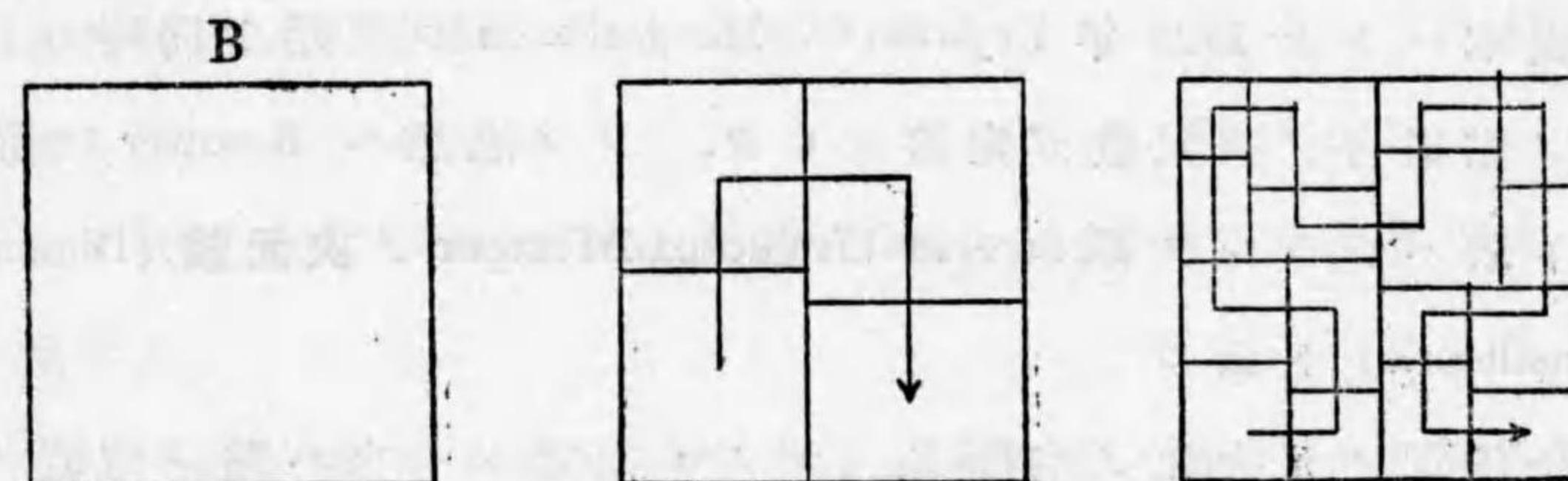
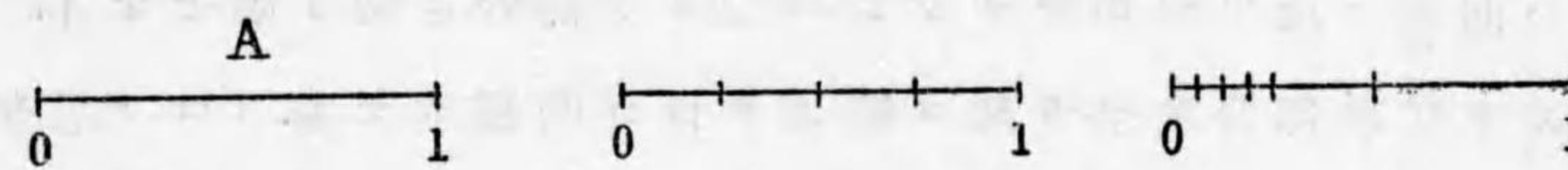
實際カ、ル曲線ハ作ルコトガ出来ルノデ、次ニ  $n=2$  ノ場合ヲ證明ショウ。一般ノ場合モ全ク同様デアル。

即チ正方形ヲスベテ滿タシ、 $D$  ノ點モ三回以上通ラヌ様ナ連續曲線ヲ作ツテミヨウ。ソレニハ 37 頁デ述べタ Hilbert ノ方法ヲ少シク改良スレバヨイ。

正方形  $B$  ヲ四等分スル代リニ少シ分割線ヲズラシテ次ノ圖ノ様ニスレバ、 $D$  ノ點モ三個以上ノ小正形ニ共通ナ點ハナイ。



線分(01)ヲ等分シテ各小正方形ヲ小線分ニ對應セシメ Hilbert ノ方法ト全ク同様ニシテ正方形ヲ全部滿タス連續曲線ガ得ラレル。コノ時ハドノ點モ三重點以上ニハナラナイコトモ容易ニ分カル。



**注意.** 故ニ 57 頁ノ平面上ノ Peano 曲線デハ任意ノ小サナ面分内ニ少クトモ三重點、任意ノ小サナ曲線上ニ少クトモ二重點ガ存在スル。今特ニ正方形ノ一邊ニ平行ナ直線ヲトレバ、ソノ上ニ少クトモ二重點ガ存在スル。カ、ル直線ノ集合ハカ、ル数  $c$  ヲ有スルカラ從ツテ重複點ノカ、ル数ハ  $c$  デアル。

### 10. Brouwer-Urysohn-Menger ノ次元論

前ニ次元數ノ不變性ヲ證明シタガ、アノ時ノ定理ハ實ハ或ル特殊ナ點集合即チ内點ヲ含ム集合ニツイテノコトデ、一般ノ點集合ノ次元數ハ何トモ定義シナカツタノデアル。

次元数トイフ考ヘハ幾何學ノ最モ古イ思想デアアルガ、コレガハツキリト定義サレタノハゴク最近デアアル。

次ニ如何ニ任意ノ點集合ノ次元數ガ定義サレルカヲ述ベテ本講ヲ終ルコトトシヨウ。

先ズ常識的ニ直線ガ一次元、正方形ガ二次元、立方體ガ三次元ト云ツテ居ルガ、ソノコトハ次ノコトガ根本ニナツテ居ル。即チ直線ヲ二ツノ部分ニ切り離スニハ一點ヲ除ケバヨイ。正方形デハ曲線ニ沿ツテ切レバ二ツノ部分ニ切り離レル。立方體デハ曲面ニ沿ツテ切ラナケレバ二ツノ部分ニ切り離セナイ。

カクアル部分ヲ切り離ス時切り口ガ問題ニナル。コノ思想ヲ根本ニシテ 1922 年 Urysohn ト Menger ニヨツテ殆ド同時ニ任意ノ點集合ノ次元數ガ定義サレタ。ソノ思想ハ Brouwer ニ溯ルト云ハレ、コレヲ **Brouwer-Urysohn-Menger ノ次元論** (Dimensionstheorie) ト云ウ。

今任意ノ  $n$  次元ノ空間  $R_n$  (コノ  $n$  次元トイウハ點ノ位置ガ普通ノ  $n$  個ノ直交座標ガ表ハサレル意デアアル) 内ノ點集合ヲ  $M$  トスル。

$M$  ガ空集合即チ點ヲ含マナイ時ハ、 $M$  ノ次元數ヲ  $(-1)$  ト定義スル。

若シ  $M$  ガ空集合デナケレバ、 $P$  ヲ  $M$  ノ一點トシ、 $P$  ヲ含ム任意ノ開集合  $U$  ヲ  $P$  ノ近傍ト云ウ。

若シドンナニ小サク  $P$  ノ近傍  $U$  ヲトツテモ、 $U$  ノ中ニ更ラニ近傍  $U_1$  ヲ見出シテ、 $U_1$  ノ境界ト  $M$  トノ交リガ空集合即チ  $(-1)$  次元ノ集合ナル時ニ、 $M$  ハ  $P$  點デ  $0$  次デアルト定義スル。

$M$  ノ各點ガ  $0$  次元ナル時ニ、 $M$  ノコトヲ「 $0$  次元ノ點集合」ト云ウ。

次ニ若シ  $P$  點ノドンナ小サク近傍  $U$  ヲトルモ、ソノ中ニ近傍  $U_1$  ヲ見出シテ  $U_1$  ノ境界ト  $M$  トノ交リガ  $0$  次元ノ集合ニナル様ニ出來ルガ、シカシ如何ニ  $U_1$  ヲトツテモ  $U_1$  ノ境界ト  $M$  トノ交リガ  $(-1)$  次元ノ集合ニナラス時ニ、 $M$  ハ  $P$  點デ  $1$  次元デアルト定義スル。

$M$  ノ各點ガ高々  $1$  次元デ、少クトモ一ツ  $1$  次元ノ點ヲ含ム時ニ、 $M$  ノコトヲ「 $1$  次元ノ點集合」ト定義スル。

次ニ  $P$  點ノ任意ノ小サク近傍  $U$  ノ中ニ更ラニ近傍  $U_1$  ヲ見出シテ、 $U_1$  ノ境界ト  $M$  トノ交リガ  $1$  次元ノ集合ニナル様ニ出來ルガ、シカシドンナニ  $U_1$  ヲトツテモ、 $U_1$  ノ境界ト  $M$  トノ交リガ  $1$  次元以下ニハナラナイ時ニ、 $M$  ハ  $P$  點デ  $2$  次元デアルト定義スル。

$M$  ノ各點ガ高々  $2$  次元デ、少クトモ  $2$  次元ノ點ヲ一ツ含ム時ニ、 $M$  ノコトヲ「 $2$  次元ノ點集合」ト云ウ。以下順次  $3$  次元、 $4$  次元等ヲソレヨリ低イ次元ノ點集合デ定義スルコトガ出來ル。

コノ定義ニヨツテ直線、正方形、立方體ハ夫々一次元、二次、三次元ナルコトガ證明サレル。

定義カラ  $N \subset M$  ナラバ  $N$  ノ次元數ハ  $M$  ノ次元數ヨリ大デナイコトガ分ル。

コノ注意スルコトハ  $P$  ガ  $R_n$  ノ中ニ含マレレバ  $R_m (m > n)$  ノ中ニモ含マレルカラ、コノ時  $P$  點ノ近傍トイフコトガ  $R_n$  ノ時ト  $R_m$  ノ時トハテガフコトデアアル。ソレニモ拘ラズ  $M$  ノ



次元數ハ同ジニナルコトガ云ヘル。

上ノ定義ニヨツテ任意ノ點集合ノ次元數ハ定義サレタ。例ヘバ  $M$  ヲ平面上ノ座標  $(x, y)$  ガ共ニ有理數ナル點ノ集合トスレバ、ソノ任意ノ點  $P(x, y)$  ヲ中心トシテ、一邊ノ長サガ無理數デ任意ニ小ナル正方形ハ  $P$  ノ近傍デ、ソノ境界ハ  $x = \text{const} = c_1$ ,  $y = \text{const} = c_2$  ( $c_1, c_2$  ハ無理數) ダカラ、 $M$  トハ交ラナイ。故ニ  $M$  ノ各點ハ 0 次元ノ點デアアル。故ニ  $M$  ハ 0 次元ノ點集合デアアル。

二ツノ點集合  $M$  ト  $N$  トヲ連続的ニ 1-1 對應セシメル時ハ、 $M$  ノ次元數ト  $N$  ノ次元數トハ同ジナルコトガ證明サレル。コレガ眞ノ意味ニ於ケル次元數ノ不變性デアアル。

カクシテ最モ一般ナル意味ニ於テ次元數ノ不變性ガ確立サレタノデアアル。

次元數ガ定義サレタカラ、コレカラ種々ノ問題ガ簇出シテ來ル。ソノ中デ著シイモノヲアゲレバ、 $m$  次元ノ集合ト  $n$  次元ノ集合ノ和ハ高々  $(m+n+1)$  次元デアアル。又高々可附番個ノ  $n$  次元ノ閉集合ノ和ハ  $n$  次元デアアル等ノ定理ガ證明サレル。

詳シクハ Menger ノ書: Dimensionstheorie (Teubner 1928) ヲ見ラレタイ。

終

## 索 引

### ア 行

あれふ .....	30
1-1 對應 .....	3
s 分割 .....	179
横断線 .....	154

### カ 行

かゝるなる數 .....	30
" 和 .....	58
" 積 .....	61
" 冪 .....	63
" 比較可能定理 .....	88
外點 .....	111
核 .....	126
可約 .....	129
Cantor-Bendixson ノ定理 .....	128
既約 .....	130
境界 .....	112
境界要點 .....	157
境界點 .....	112
到達可能ノ境界點 .....	147
凝集點 .....	104, 126
極限數 .....	76
曲線	
連続曲線 .....	139
単一曲線 .....	146
Jordan 曲線 .....	146
Peano 曲線 .....	37, 191

曲面積 .....	146
近傍 .....	111
區間 .....	100
計數 .....	30
孤立點 .....	104

### サ 行

集合 .....	1
空集合 .....	2
部分集合 .....	5
可附番集合 .....	8
高々可附番集合 .....	8
集合ノ和 .....	12
集合ノ差 .....	13
集合ノ積 .....	13
共通集合 .....	13
結合集合 .....	61
$M$ デ $N$ ヲ覆ノ集合 .....	63
點集合 .....	100
餘集合 .....	101
導集合 .....	105
高次導集合 .....	91
閉集合 .....	110
開集合 .....	114
自己稠密集合 .....	110
完全集合 .....	110, 122
連続集合 .....	133
順序ノツイタ集合 .....	68
整列集合 .....	72
集合ノ距離 .....	135

集合ノ直徑 .....	138	濃度 .....	30
集合體 .....	194		
次元論 .....	197	<b>ハ 行</b>	
次元數ノ不變性 .....	33, 176, 200	被覆定理 .....	121
順序型 .....	67	Bernstein ノ定理 .....	50
順序數 .....	76	Burali-Forti ノ逆理 .....	89
高々可附番順序數 .....	91	面分 .....	114
順序數比較可能定理 .....	81	單一連結ノ面分 .....	152
Schoenflies ノ定理 .....	149, 187	重複連結ノ面分 .....	160
Jordan ノ定理 .....	143, 146, 157		
シンプレックス .....	178	<b>ヤ 行</b>	
整列可能定理 .....	84	有界 .....	106
切斷 .....	77	要素 .....	
撰擇公理 .....	84		
相似 .....	68	<b>ラ 行</b>	
		Russell ノ逆理 .....	98
<b>タ 行</b>		Liouville ノ定理 .....	26
代數的數 .....	15	Lebesgue ノ定理 .....	180
對角線方法 .....	24	領域 .....	114
Zermelo ノ公理 .....	84	領域ノ不變性 .....	187
超越數 .....	25	連續性ノ公理 .....	107
Liouville ノ超越數 .....	28*	連續體 .....	30
超限歸納法 .....	82, 93	連續體問題 .....	47
同等 .....	2		
凸多面體 .....	178	<b>ワ 行</b>	
		Weierstrass-Bolzano ノ定理 .....	106
<b>ナ 行</b>			
內點 .....	111		
二分法 .....	108		



弊社ハ貼紙捺印等ニヨル  
定價ノ改變ヲ致シマセン

發行者寄贈



<b>集 合 論</b>		定價 200 圓 地方賣價 210 圓
昭和9年4月15日 初版印刷 昭和9年4月18日 初版發行 昭和25年2月15日 七版印刷發行	著 者 辻 正 次 代 表 者 發 行 者 南 條 初 五 郎 東京都千代田區神田駿河臺3-9 印 刷 者 藤 本 肇 東京都文京區西江戸川町19 印 刷 所 藤 本 印 刷 株 式 會 社 東京都文京區西江戸川町19	
發行所 東京都千代田區神田駿河臺3-9 電話 神田(25)1518・2624 番 振 替 東 京 57035 番		<b>共立出版株式會社</b>

小賣部 東京都千代田區神田神保町2-2  
大阪店 大阪市北區會館橋上3-8

共立出版株式會社

數學書一班

- |                |          |
|----------------|----------|
| 高木 貞治著         | 改訂代數學講義  |
| 高木 貞治著         | 初等整數論講義  |
| 竹內 端三著         | 整數論      |
| 渡邊 秀雄著         | 新編解析幾何學  |
| 南雲 道夫著<br>春木 博 | 解說微分積分學  |
| 中野 秀五郎著        | ヒルベルト空間論 |
| 中野 秀五郎著        | 古典積分論    |
| 小松 勇作著         | 等角寫像論上・下 |

近代數學全書

- |         |          |
|---------|----------|
| 正田 建次郎著 | 代數學通論    |
| 寺阪 英孝著  | 射影幾何學の基礎 |
| 吉田 耕作著  | スペクトル解析  |
| 河田 敬義著  | 確率論      |
| 淡中 忠郎著  | 代數的整數論   |
| 淺野 啓三著  | 環論及イデアル論 |

421  
30.4.18  
79.5.2

請求番号

受入番号

○貸出期間は二十日以内

○転貸しない。期間内に御返し下さい

○返の場合は保証金で弁償しなければなりません

(1) 図書を亡失、又は毀損した場合

(2) 標記を受けてから十日以内に返さない場合

国立国会図書館

終